

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

～ブレずにまっすぐ！～

前衆議院議員

小山のぶひろ

氏に訊く

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

ようやく昨年12月に立憲民主党さんと国民民主党、社会民主党の合流が協議されることになりました。予断を許さない情勢ではあるものの、野党結集に向けた大きな前進であると考えます。野党に関わりの少ない有権者の皆様方からすれば「野党は分裂したり、くついたり、何をやっているのだ」と嘲笑されてもやむない状況が数年続いています。しかし、2017年の衆議院議員選挙の直後には、民進党と立憲民主党と希望の党の三党が乱立し、その状況が固定化する懸念すらありました。2018年1月に希望の党の幹部と電話した際には、無公認（無所属）で出馬した私のところに、再び希望の党が刺客を立てる可能性を否定しないなど、野党の混乱状況は続いていました。しかし、希望の党は解散し、その多くの議員が民進党に復党するとともに、民進党は存続政党として名称を「国民民主党」に改称し、ようやく三党は二党に集約されました。小沢一郎衆議院議員の率いる自由党との合流が果たされ、2012年の民主党分裂以来の和解が進んだものの、2019年4月には立憲民主党が小選挙区全てに立憲民主党の候補を擁立する「意向を持っていることが報道され、立憲民主党との候補乱立が懸念されるこ

ととなりました。2019年の参院選静岡選挙区（定数2）においては、世論調査の結果を踏まえれば野党で2議席独占は極めて困難な情勢であり、国民民主党の榛葉賀津也参議院議員が現職としていたにもかかわらず、立憲民主党が候補を擁立し、事実上の刺客を立てることとなりました。しかし、参院選後、ようやく両党が「共同会派」を組むこととなり、混乱に終止符が打たれる目途が立ってきました。

日本には、国粹的・右翼的な意見から、リベラル・左翼的な意見まで様々な民意があります。議会の場では様々な民意を背負った議員たちが、それぞれの民意や意見を全否定することなく、「敬意を持ちつつも異論を唱える」姿勢で議論し、合意形成を図っていくべきです。国粹的・右翼的民意から中道保守的な民意を代表しようとしているのが自民党でしょう。一方で、小選挙区選挙制度や参議院選挙の一人区では、野党候補が乱立すれば、自民党を利するだけとなります。比例代表を主力とする公明党と共産党を除けば、リベラルから穏健・中道保守までの民意を代表しようとする、小選挙区における選択肢になりうる政党がどうしても必要です。「民主党の失敗を繰り返すのか」というご意見をいただくことがあります。民主体制についていかなる評価があったとしても、小選挙区制度におけるもう一つの大政党、責任政党の必要性が失われるわけではありません。ご評価いただけるような、しっかりとした責任政党を創っていく使命があると思っています。加えて、かつての民主党の際には、自民党よりも国粹的な意見の議員（自民党よりも右の「非自民」）が、選挙区事情等で紛れ込んで混乱を引き起こしました。しかし、彼らの大半は、希望の党に先行離党し、民進党に復党しませんでした。中には自民党員となつた者もおります。今回の野党結集は元の民主党に戻るわけではないのです。それぞれの背景や支持者を持つ議員が、全ての点で一致することはありません。個別政策に違いがあっても、「リベラルから穏健な保守」までの民意を代表する意思を持つ議員・候補者が結集し、緊張感のある国会、健全な政党政治を創造していくべきであり、私もその中で自分の役割を果たしていきたいと思っています。

前衆議院議員 小山 展 弘

